



公益社団法人日本ファイナンソロピー協会 理事長

高橋 陽子

たかはし・ようこ

1973年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業。高校教師を経て、85年上智大学カウンセリング研究所専門カウンセラー養成課程修了、専門カウンセラーの認定を受ける。85年～91年関東学院中学・高校心理カウンセラーとして生徒、教師、父母のカウンセリングに従事。91年より日本ファイナンソロピー協会。事務局長・常務理事を経て2001年より理事長。

「我が社のCSR」という言葉はよく聞きますが、「CSRのしがぎん」という表現に、CSR経営への覚悟と自負を感じます。その核になっているのが、1999年に打ち出した「クリーンバンクしがぎん」構想の具現化であり、昨年金融業界初の認定を受けた「エコ・ファースト企業」への進化でしょう。「カーボンオフセット定期預金『未来の種』」と「事業者向け環境配慮型融資『未来の芽』」の取り扱いを開始するなど、常に“金融機関初の”という枕詞がつくほどの先駆的な取り組みに、次代を見据え時代をリードする、「環境を主軸としたCSR経営」がダイナミックに展開されていることを実感します。

来年には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知・名古屋で開催されることが決定し、今年8月には「生物多様性民間参画ガイドライン」が環境省から発表されました。「事業活動と生物多様性との関わり(恵みと影響)を把握するよう努め、生物多様性に配慮した事業活動を行う」ことを挙げています。このように、企業に対し、新たなテーマへの取り組みに次々と期待が寄せられていますが、“しがぎん”では、早くから生物多様性保全・排出量取引・気候変動への取り組みに着手しておられます。トップメッセージにもありますように、さらに、新たな「環境価値創造」に向け、エコビジネスを生み出す牽引力としての期待もますます増大していますが、“エコをビジネスに”というキャッチフレーズが安易に横行し始めている今こそ、環境先進企業として、真の環境経営の範を示していただきたいと思います。

そうした中で、「地域社会・役職員・地球環境」との共存共栄の実現を担う主体は役職員です。また、これはそれぞれが有機的に絡み合いながら進化していくものです。地域社会への参加、役職員同士の横断的なコミュニケーションなどがもう少し明確に可視化できると、共存共栄にもっと厚みと広がりが出てくるのではないのでしょうか。そのために、レポートも報告としての機能に留めるのではなく、双方向のコミュニケーションツールとしての役割を持たせてはいかがでしょうか。職員同士の意見交換や、お客さまや取引先の人たちの感想や要望なども交え、それがさらなる議論を起し、新たな発想を生み出すチャンスにもつながると思います。

環境経営を柱にしたCSR経営は、役職員の誇り、地域の活力、地球の元気を創りだすための大いなるチャレンジに他ならないことを強く感じます。そのメッセージがさらに強く広く社会に届き、持続可能な社会の実現のために資する企業としてのますますの発展を期待しています。

## 編集後記

CSRレポートの発行も9回目を迎えました。制作にあたり、大切にしたいことは“しがぎん”らしさであり、地域の皆さまに楽しみながら読み進めていただける冊子をめざしました。

冒頭のトップメッセージにもありますように、私たちは「金融危機」と「地球温暖化」という2つの危機に直面しています。常に一步、二歩先の未来を見据えながら、ピンチをチャンスに変えて、本業である「金融」機能を活かした商品展開・サービスの提供により、地域の皆さまと歩みを進めていきたい、そのような思いで今後もCSR活動を展開してまいります。

皆さまの忌憚のないご意見、ご提案をお待ちしております。

総合企画部CSR室